

2016年5月25日

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人ほっとスペース八王子
代表者・役職名 氏名 施設長 堀部 正

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

韓国・朝鮮研修旅行

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

法人化後4年目、創立21年となる「ほっとスペース八王子」は「精神病者」当事者で運営する共同作業所としてスタート。「精神病者」仲間を精神病院から退院後の地域での生活を支援する活動をしてきました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

韓国・朝鮮研修旅行はこのプロジェクトを加えて9回を数えることになりました。韓国と日本の近現代史、関係史を学び、食文化、生活などを比較し、韓国・朝鮮の影響を受けながら日本が成り立ってきた経緯を学ぶ。引きこもっている現実から言葉も文化も歴史も異なる近くの外国に目を向け、訪問することで視野を広げ、深めるきっかけをつかむ。言葉が通じなくともコミュニケーションは成り立つこと、そして生活をする上でコミュニケーションがどんなに大切なことを学ぶこと。差別と偏見の地域社会に生きていく上で、自らの生活力を高めるきっかけをつかむ。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

実施時、体調不良や参加への意欲がわからないという理由で当初予定の参加者人数が少なかったため、時間をおいて、当初予定していた参加者も参加できるように二回目を実施した。一回目は研修旅行先のソウル。二回目はプサンに行き先を変えて、事前研修でソウルとプサンの違いにも目を向けて実施しました。更に、一回目で引率しようと思欲を持った参加者が引率者として二回目は実施しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPUCT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今回のプロジェクトでは韓国研修旅行を二回実施しました。参加者は一回目は4名(職員1名)。二回目は3名(職員1名)の合計7名。参加されたほっとスペース八王子の会員の变化としては、一人ひとりの参加者に積極性が表れ、2名の参加者は引率者として、あるいは引率者のサブリーダーとして他の参加者へのサポートをしたいという申し出があり、二回目は一回目の参加者の一人が引率者として二日目の夕食から三日目の起床、朝食まで活躍をしました。これは主催した「ほっとスペース八王子」としても、喜ばしい成果として受け止めています。当初予定していた成果としては、日本と韓国の文化の違いなど理解が深まったようです。更に、成果としては自信をもって日々の生活を営むことに反映していることです。

いままで実施してきた十数人規模の韓国・朝鮮研修旅行ほどの参加人数がありませんでした。ニーズが無いわけではないと思いますが、これも現在の障害者総合支援法による精神福祉施策のなせる業だということかと残念に思います。「精神病者」が自室や施設内で萎縮している傾向が強まっているのではと思われます。しかし、その中で3名の他の事業所からの参加、自室に閉じこもっていた1名の参加があったことは成果でもあると思います。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回の実施では前述のように研修旅行に興味を持ち、自ら引率する意欲が参加者の中に出現した。当事者で運営するという理念が研修旅行においても可能となる展望が見えてきました。そのことで、大人数の参加者が応募しても対応可能、実現可能な展望が開けてきました。

次は、行き慣れた韓国だけでなく、他の国への研修旅行にも広げていきたいと思えます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



2015年10月1日 ヨウシル 中部市場